Global Village

第 21 号 4/13/2023

Newsletter. Vol 21

「あなたの人生に意味を与えることができるのは、あなたしかいません。 要は、世界は、誰かが変えてくれるのではなく、あなたが変えるしかないのです。」 ~心理学者 アルフレッド・アドラー~

自ら考え、行動する主体性

世界的な競争と共生が進む現代社会において、「自分がやりたいことを自

分で見つけ、実行していく力」は、これからの時代を生き抜いていくために、必要な力だと言えると思います。社会の様々な課題に「自分事」としての責任と自覚を持ち、自身ができることに取り組むことは、未来を生きる子どもたちにとって、自らの可能性を広げ



る上でも重要な経験ではないでしょうか。今回は「社会課題を自分事として 捉え、行動を起こせるようになる」ことをゴールに、神奈川県の中学校で実 施したプログラムの事例をご紹介いたします。

他者と協働しながら主体的に課題に向かう

参加者は日頃より、学校教育の一環として SDGs に関する活動に取り組んでいます。今回のプログラムのゴールでもある「主体的に課題に向かう」ための一歩として、参加者は「My SDGs」というテーマで、それぞれが選んだ社会課題について英語でプレゼンテーションを行いました。自ら課題を見つけ、それを解決するためのアイデアや提案を考え、実際に留学生と共有するというプロセスを通じて、「自ら考え、主体的に行動する」ことに挑戦しました。

留学生による母国の社会課題のプレゼンテーションでは、その社会課題が何であるか、その原因や背景、どのような影響があるか、現地の人々はどのようにその問題に取り組んでいるかについて学びました。

以下は、「プログラムを通じて学んだこと」についての参加者の言葉です。

LbE Quiz!

Question:

廃棄寸前のサワーポメロ (柑橘)の果皮を使い、 様々なアロマ商品に加工 して販売している会社が あります。このように廃 棄物や不要な素材を再利 用する取り組みを何と呼 ぶでしょうか。

- 1. リサイクル
- 2. リユース
- 3. アップサイクル



(答えは裏面に記載)



『ナミビアという国がアフリカにあるということ。ナミビアでは人口の約60%が貧しい人々で、貧しい家は40万軒もあるということ。食糧不足に苦しむ人々は全体の約50%ほどで、世帯数にすると25万もいること。ナミビアは安全ではない国で、スラムに住んでいる人は43%もいること。今後SDGs を学んでいく上で参考にしていきたいと思う。』

LbE Quiz! 答え

Answer:

このような取り組みは、「ア ップサイクリング (upcycling)」と呼ばれま す。アップサイクリングは、 廃棄物や不要な素材を再 利用して、それらに新たな 価値を与えることで、環境 問題の解決や資源の有効 活用を目指す取り組みで す。サワーポメロは鹿児 島特産の柑橘で、さわや かな香りと酸味が魅力で す。大好きなサワーポメ ロの香りを届けたるため に、地元の高校生がこの 会社を起業しました。



自分の知らない世界や課題があるということを認識することは、SDGs の実現に向けた重要な一歩である。そんな気づきを、参加者は留学生との活動を通じて得ることができたのではないでしょうか。



プログラムの集大成であるグループプレゼンテーションでは、「**留学生の母国の** 社会課題に対して中学生の自分たちにできること」をテーマに、発表を行いました。あるグループの参加者は、COVID-19パンデミックの影響により、世界中でワクチン需要が高まる中、アフリカ諸国の

ワクチンの調達が困難な状況に対し、ペットボトルキャップの回収を通した ワクチン寄付の方法について紹介をしました。留学生の母国の社会課題につ いて、自分たちができることを考えることは、SDGs の課題解決に対する自 分たちの責任を再確認する機会となりました。

人生を豊かにする自己実現力

以下は、参加者の感想の一部です。

- 『世界中の問題について他人事ではなく自分ごととして捉えやすくなった。』
- 『新しいことにチャレンジすることに抵抗だけを持つのではなく、積極的に挑戦する姿勢を持とうと思った。』

今回のプログラムを通じて、参加者は SDGs についての理解を深めるだけでなく、 自分たちができる行動を考え、実際に行動することの大切さを学ぶことができたよう です。

「自分事」として捉えて考えることは、自分自身の関心や関わりが生まれ、自ら行動を起こす原動力となります。また、「主体性」は自己決定力や自立心、成長につながる重要な資質でもあり、人生を豊かにするために必要なものだと思います。

SDGs への挑戦が、将来を担う世代の参加者にとって、自分の可能性を信じ、将来への展望を持ち、さらには自己実現への道へとつながることを願います。

この度は Newsletter 第 21 号を手にとっていただき、誠にありがとうございました。
これからも、日々増え続けている「学びの場面」の事例をピックアップしてご紹介させていただきます。
株式会社 LbE Japan (エルビージャパン) http://www.lbejapan.co.jp info@lbejapan.co.jp